以下は、人文学部英米言語文化コースの授業「演習 II」（＝卒論ゼミ）で、3 年生 2 名がおこなった口頭発表の配布資料（A4 二枚）です。

2・3 年次には、このように、自分が興味を持った映画や小説について、自由なテーマで分析し、その結果を授業で口頭発表したり、期末論文にまとめたりします。

4 年生には、2・3 年次に扱ったこうした映画や小説のなかから卒論で扱う作品を選び、参考資料を読み、論文として仕上げていく人が多いです。（そうすると、いきなり卒論を書くより、スムーズに行きます。）

この口頭発表を発展させた卒論（2014 年度）も HP に掲載されていますので、あわせてご覧ください。(映画 *The Bucket List* 研究――現代アメリカ人のユーモアおよび生死観――)

2013年度前期英米言語文化演習Ⅱ　　英米3年 [redacted]　6月11日発表

使用作品 *The Bucket List* (2008)　主演：Morgan Freeman, Jack Nicholson

発表のねらい この映画では人生に関するセリフ（独白）が多出する。本発表ではこうしたセリフに注目する。また、セリフを強調する作品の構成についても考察する。

あらすじ 家族のために、ひたすら働いてきた自動車整備工 Carter Chambers (Morgan Freeman)。会社を大きくすることに人生のすべてをつぎ込んできた実業家 Edward Cole(Jack Nicholson)。対照的な人生を歩んできた二人はガンで余命6ヶ月と宣告され、病院のベッドで隣り合わせたことから、人生の最後を共に過ごす仲間となる。ベッドの上で彼らは"棺おけリスト"を作った。病院を飛び出した二人の生涯最後の冒険旅行が始まる。ひとつまたひとつとリストを埋めていく中で、二人は様々な疑問に取り組むことになり、生涯の友になった。
＊棺おけリスト(The Bucket List)：自分たちが棺おけに入る前に、やりたいこと、見たいものすべてを書き出したリストのこと。

人生に関するセリフ ＊CはCarter、EはEdwardを表す

（1）人生の価値の量り方【Ch.1】

C: 人生の価値など容易には量れない、「家族や友によって量られる」と言う人、「信仰心による」と言う人、「愛だ」と言う人、「人生に意味などない」と言う人もいる、私は―「自分を認めてくれる人がいるか」で決まると思う。【日本語字幕 00：00：36】

C: It's difficult to understand the sum of a person's life. Some people will tell you it's measured by the ones left behind. Some believe it can be measured in faith. Some say by love. Other folks say life has no meaning at all. Me? I believe that you measure yourself by the people who measured themselves by you.【英語字幕】

《考察》人は他人に見られ、評価されることで存在価値を確かめる。自分を認めてくれる人がいることで自分の人生に価値が生じると、カーターは考えていると思われる。

（2）目と心【Ch.1】

C: エドワードの最後の日々は多くの人の一生分に値した。彼がその目を永遠に閉じた時、心は開かれた。【日本語字幕 00：01：08】

C: Edward Cole lived more in his last days on Earth than most people manage to wring out of a lifetime. I know that when he died, his eyes were closed and his heart was open.【英語字幕】

《考察》エドワードが余命を宣告されたときに自分の人生の終わりを悟ったことを「目を閉じた」と表現し、最後の日々を Carter と過ごすことによって、それまでとは違った価値観や考え方を持つようになったことを「心は開かれた」と表現したと考える。

（3）天国の扉（カーターの質問に対し、エドワードは葬式のスピーチで答える）【Ch.14 と Ch.22】
C: 死ぬと天国の扉の前で神に 2 つ質問をされ、その答えによって入れるか決まる。人生に喜びを見つけたか？他者に喜びを与えたか？【日本語字幕 00：59：49】
E: 我々はお互いの人生に喜びをもたらしあいました、だからいつの日か私が最後の眠りに就き天国の扉の前で目を覚ました時、そこに証人としてカーターにいてほしい、そして天国を案内してほしい。【日本語字幕 01：30：50】
C: When their souls got to the entrance to heaven the gods asked them two questions. Their answers determined whether they were or not. Have you found joy in your life? Has your life brought joy to others?
E: I think it's safe to say that we brought some joy to one another's lives, so one day, when I go to some final resting place, if I happen to wake up next to a certain wall with a gate, I hope that Carter's there to vouch for me and show me the ropes on the other side.【英語字幕】

《考察》物語の中盤で Carter から投げかけられた「他者に喜びを与えたか」という質問に Edward は"Yes."と即答できなかった。しかし、Carter の葬式でのスピーチ（最後のチャプター）では自信を持って「お互いの人生に喜びをもたらしあった」と話す。

まとめ

- 逆説的テーマ：余命を宣告された人が悔いのないように残りの人生を過ごす方法は、①人のために役立つ事をして自分の幸福感、達成感を得る、②自分がやりたかった事を人生最後にやりつくす、の 2 通りがあると発表者は考える。この映画では②を彼らは選択肢しながらも、結果的にはお互いの家族に幸せな瞬間をもたらす結末が逆説的である。（旅から帰ると、Carter は妻との関係に向き合う。Edward は音信不通だった娘と再会し、孫にも会う。）

- 繰り返しで強調する構成：最初と最後(Ch.22)のチャプターにヒマラヤ山脈が出てきて、セリフ〈（2）目と心に関するセリフ〉も繰り返す。また、中盤のチャプターのセリフ〈天国の扉に関する質問〉に、最後のチャプターの Edward のセリフ〈Carter の葬式でのスピーチ〉で答えが出た。→繰り返したり、応答形式にすることによりテーマが強調される。

参考資料 DVD: 『最高の人生の見つけ方』Warner Bros. Pictures